

第3回南富山駅周辺まちづくり関係者協議会 議事録

日時 令和6年3月18日(月)14:00~16:00

場所 堀川地区センター2階ホール



1. 会員名簿

(順不同、敬称略)

所属・役職	氏名	備考
堀川自治振興会 会長	村家 博	
堀川南自治振興会 副会長	大山 淳子	代理:熊野氏
富山地方鉄道株式会社 企画部副部長兼企画交通政策課長	吉川 護	代理:高松企画部長
(公財)富山県宅地建物取引業協会 富山支部長	布目 大	代理:坂東副支部長
(公財)全日本不動産協会 富山県本部 専務理事	高崙 誉史	
南富山まちづくりを考える会 会長	松山 朋朗	
南富山商盛会 会長	小畑 信之	
富山市立堀川中学校 校長	大久保 秀俊	代理:小田教頭
富山県立富山高等学校 校長	佐野 友昭	欠席
富山県立富山いずみ高等学校 校長	越後 喜紀	欠席
東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授	真野 洋介	

2. 次第

- 1 開会あいさつ
- 2 関係者協議会資料に関する意見交換について
別紙 第3回関係者協議会資料
 - (1)第2回協議会の振り返り
 - (2)南富山駅周辺事業者アンケート
 - (3)富山いずみ高校生へのヒアリング
 - (4)第3回まちづくり対話会
 - (5)まちづくりビジョン(案)
～意見交換～
- 2 次年度以降の取組みについて

3. 議事

1. 開会あいさつ

○事務局

ただいまより、第3回南富山駅周辺まちづくり関係者協議会を開会いたします。

本日は9名の議員の方にご出席いただいております。なお、堀川南自治振興会大山副会長の代理として熊野様、富山地方鉄道株式会社吉川企画部副部長の代理として高松企画部長、富山市立堀川中学校大久保校長の代理として小田教頭、公益財団法人富山県宅地建物取引業協会布目支部長の代理として坂東副支部長にご出席いただいております。

なお、今回ご都合により富山県立富山高等学校の佐野校長、富山県立富山いずみ高等学校の越後校長が欠席となっております。

それでは、次第に沿って会議を進めてまいります。最初に事務局より一括して資料の説明をした後、委員の皆様との意見交換に移らせていただきます。なお、意見交換の場では、これまで同様、東京工業大学の真野准教授にファシリテーターをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料に沿って事務局より説明いたします。

2 関係者協議会資料に関する意見交換について

○事務局

※別紙 第3回関係者協議会資料、南富山駅周辺まちづくりビジョンを一括して説明では意見交換の場に移らせていただきます。真野先生、よろしくお願いいたします。

○真野委員

皆さん、よろしくお願いいたします。ご意見がある方は誰でもどの方面でも結構です。先ほどたくさんの資料があって、これまでの振り返りと取りまとめ、追加調査、事業者と高校でのヒアリング、そしてビジョンのA3版の概要と細かく説明して頂いた本編の話がありました。個々の部分でも結構です。

○大山委員(代理 熊野様)

南富山駅周辺まちづくり対話会にすべて参加しました。やはり一番必要なのは、南富山に居たくなるような、例えば、学生達ならば自習や図書館的なもの。あるいは、カフェなど囲らんできる所。やはり車と自転車の一方通行で危険ということですが、車は通すけれども、人には滞留してもらわなければいけません。

○真野委員

そうですね。対話の会の中では、だんだん具体的になり、かなりポイントも絞れてはきていて、おそらくそこで受けたことは、全てここに入っているわけではありませんが、生きてはいると思うので、実際に整備・検討する時に、出発点のようなところで、いろいろ入ってくるものと思います。それをもっと大きく項目ごとに整理したものがこれだと思います。おっしゃるとおりだと思います。

○大山委員(代理 熊野様)

総じてそういう話は多かったと思います。

○真野委員

そういった意見をしっかりふまえて欲しいというご意見でよろしいですか。

○大山委員(代理 熊野様)

そこに滞在するスペースは何もありません。次の目的地へ行くまで、ここで待ち合わせして、何か話をしようという雰囲気のある所は1つありません。買い物も私は80歳半ば過ぎになります。地鉄の駅舎は昭和43年に改築されたものでした。あの頃は結構賑わいがありました。全車四両編成でも満員、不二越でも8000人ほどいた時でしたから。あとは、モータリゼーションで郊外のスーパーに流れていくので、それをどう止めるか、みんなの知恵で考える必要があると思います。もったいないです。

○真野委員

前回の対話会の時に、高齢者の買い物が難しくなるようなお話をされましたね。おそらくそういった車で軽く回れて便利な範囲があって、今回は駅から500mを基本的に徒歩や自転車で行く前提で便利な環境にしようという話があって、外側の環境はもう充分便利なわけなので、もう少し近い距離をこれから取り組んでいくことかと思います。また、住民と関係事業者がチームを組むなど、意見交換の形が進んでいくことがこの先あると思いますので、この中に細かく書くことは現段階でそこまでやる必要はないと思います。

○村家委員

やはり南富山を中心に半径500mとした時に、まず核になる施設がありません。普通なら買い物ができるところ、居住だけを考えた時には学校や病院があって近い。そういうことが条件になってきます。そして一番の問題は以前も言いましたが、サンマートというスーパーがありました。あの頃はまだそれなりに高齢者も含め、人も集まっていました。まず、買い物のできる場所がありま

せん。商店街も後継者問題など色々あって、落ち着いていて、決して廃れているとは言いませんが、魅力があまりないと思います。だから、核になるような、一番人が集まる、高校生が休める、集まる場所、ビジター的なものも含めてそういうものがあれば、人が集まることになれば、またいろいろな管理を考えていくようなこともできればいいのではないかと思います。私は以前議員を務めていた頃、何回か地権者と話をして、たくさん土地を持っているから提供してもいいと聞いています。行政で何かやるなら、どれだけでも協力してもいいので、とにかく昔からの町内で高齢者の方々が多くて、道路も狭い。南富山駅を含めて再開発されるときは、どれだけでも協力しますということで、声援をいただいております、良いことだと思っています。だから、一番の問題はやはり人が集まる、人に対して魅力的な、核になるものが絶対必要だと思っています。その中で頭となるのは、やはり公共交通です。地鉄もそうです。一方通行になっているところなど、個人的に都合が悪い所もいろいろ聞いていますが、一体的に考えていく必要があります。個人個人が、交通は交通、買い物は買い物、学習は学習ではなく一体的に考える必要がある気がしています。

○小畑委員

私は商売屋として、まずこの計画は10年先というものになっています。その頃にはもう、今開いているようなものも潰れてしまっているスパンではないかと思っています。今だから、こういうものを求めたりしますが、長くかかるものです。市にも協力してもらっていますが、目的がもう少し近い将来でないとい生懸命になれないような気がします。一生懸命やっている方には失礼ですが。

あと、学生の環境といってしまうときれいなものばかりで求めてしまう。ただ、今の学生は十分に大人の遊べるようなところにも順応できると思います。若い人って結構そういうところが好きです。勉強もするけど、遊びも好き。そういうきれいなところばかりではなく、これはいけないと思うような遊び場があっても、それも子供も判断してやることですから、大人も子供も一緒に遊べるといったもの。例えば、皆さん食べることとお酒を飲むこと、好きですよ。有名な焼き鳥のお店が富山駅前にも2軒あって、毎日いっぱいお客さんが入っています。南富山にはそういうものはありません。作れる場所だと思いますし、電車に乗って行けます。また、電車に乗って帰れるような場所ですので、人が集まるというのは、そういうことが大事です。学生街だからと言っていたのでは発展しないと思います。

○真野委員

趣旨は、やはり行政が絡んだり、整備したりするものは時間がかかりますが、民間で、例えば、人気のお店が出てくれるなど、そういった集客は、特に10年先ではなく、やはりチャンスがあれば動くことだと思います。すべてそろって、一斉に10年後がボンと来るわけではなく、やはりすぐできることはすぐ着手していく。10年先を見据えますが、今から取り組むということだと思いますので、10年先というと、先延ばしにしていると見えるかもしれませんが、そうではないと思います。結局、この新幹線の開業などもそうで、今は開業していますが、議論や整備工事などは10年ぐらいかかっています。あれほど大きなものではないですが、やはりそれなりに時間はかかることもあるので、その物差しが10年と言っているだけかと思っています。今みたいなお店や、先ほどの、こういうものがあると町の人にはいいということは、やはり何かしら早く、民間なり、それこそ不動産や関係の事業者でできるようなことは、仕掛けていくなど、考えていかななくてはいけないところは当然

あると思います。ビジョンの中にもよく読んだら、そういうことも書いてあります。それを、具体的に何からどの場所で、どういうチーム、事業体で実施するかというところだと思います。よいビジョンができることより、これから何をやるかということの方が大事です。

○小畑委員

全部はできないので、何からやるか決めて、市や地铁と一体となって、店側が出したくなるような環境を作らなければなりません。今のままでは。

○真野委員

駅前広場や地铁の駅舎の整備は、個別ごとに市や鉄道事業者がやらないとできませんが、それ以外のところについての、今後のイメージのようなもの、この中に込められている意味などあれば、ぜひ市の方から説明いただければと思います。

○事務局

具体のものとしては、例えば、27 ページ【暮らし】で「まちの中に自分らしく過ごせる場所や目的がある」の中、望まれる取組みや活動の3点目、「滞留や来街行動を促す機能」ということで、「地域の特性やアクセス性の高さを活かした機能・施設の充実」と書いています。これは先ほどからあるように、行政ではスーパー等の民間の建物は当然建てることはできませんので、そういったものを民間事業者の方に地域のニーズなり、拠点性を生かしたようなものを仕掛けてもらいたいといったことで書かせていただいております。また、28 ページの【付加価値】の2点目。「地域内不動産の有効活用」で、うまく使われていない土地、建物をしっかりと使いながら価値を高めていく取り組みを進める必要があると思っております。また、あくまでハード、箱もののイメージがあると思いますが、ただそれが出来上がればいいということではなく、やはり地域住民、交通事業者、行政、いろいろな方々が一緒になって、街の魅力をしっかりと情報発信していくこと。あるいは、それを維持・持続できるような体制等を一緒に考えていくこと。そういったことも大事ですので、例えば、27 ページの4点目、「魅力を持続できる運営体制」、28 ページ、4点目の「南富山を伝える情報発信」にあります。行政だけでできること、民間でできることは限られていると思えますし、地域住民の方にもできることはたくさんあると思っておりますので、やはり一緒になって、より良い南富山を作っていけたらという思いも込めて、取りまとめしたところです。

○真野委員

はい。今のご意見に関連して、不動産業界のお二人にお伺いします。例えば、このようなビジョンができる、これから駅周辺を変えようと、行政、鉄道事業者、あと地権者の動きがある時に、出店したいなどの引き合いは来るものですか。駅が変わったなど、今呉羽駅も反対側に宅地を作るような動きが見えたら行動しますが、行動がない段階ではあまりそこまでの話は関係ないなど、南富山周辺のこれからを変えていこうというところに、不動産の土地やその店舗、賃貸の動き等は変わる可能性はありますか。

○布目委員(代理 坂東様)

宅地分譲する時、スーパーやドラッグストアがつくと、その宅地の値はすごくいいです。やはりスーパーやドラッグストアは買い物ですから、結局買い物は生活の一部となりますので。だから、必然的にテナント等に人が集まって、どこよりも近いのでいいという考え方になります。これは富山県に限らず、県外で仕事をしたときも同様です。やはり区画整理や大きな開発で、賃貸にするよりも、スーパーやドラッグストア、飲食店等があった方が宅地の売れ行きが非常にいいです。もう個人の方が買わなくても、不動産屋が抑えてくるようなことです。宅地ができて、そこに人が集まってくるということですので、本当は駅直結で買い物の便がいいなどの条件があれば、電車に乗って生活の一部になる人がおられると思いますし、免許返納も結構増えてきていますので、電車一本で行けるような、そんなスーパーが今あまりないですから。だから、買い物できる施設がまず入って、人が集まってくるようなところが面白いかと思います。そうなってくると更にいろいろな人が、そこに来る人を目的として必然的に集まってくると思います。

正直、学生目当てに商売してきた人はあまりうまくいっていません。やはり学生はお金を使わなくて、むしろコンビニの売上げが非常によいです。飲食店を学生街でやっても、お金もなく手軽だとか、そういう理由でコンビニの売上げが非常によいです。本当にコンビニで学生はお金を落としますが、居酒屋や食堂ではあまりお金を落としている雰囲気はありません。今の南富山の周りでもあまりないと思いますので。まずは、買い物の便をよくして人を集め、宅地などは基本的にそれにくっついてくるものです。今は SNS の時代なので、多少場所は悪くても、美味しいものを出していればお客様は集まってきます。そういう形でまちづくりをしていけば、人は集まって活性化されていくイメージが僕自身はあります。

○大山委員(代理 熊野様)

南富山駅周辺に空き家がありますが、それらの空き家に、どのような形になるか分かりませんが、カフェなど、今 SNS でちょっと変わったことをすればみんな集まってきます。空き家を起爆剤として始めてはどうかと思います。

○布目委員(代理 坂東様)

スーパーなら地場の企業があります。そういうところに協力していただいて、安い家賃で、あんなに大きいものでなくても入ってもらって、買い物してもらえると、歩いて行けます。そうすれば少しは活気が出るのではないのでしょうか。初めはお願いして来てもらう形になると思いますが、駐車場も少し準備して。あまり南富山の近くにはスーパーはないかと思いますので。

○村家委員

今のスーパーは出ないと思います。効率が悪いのでまず小さい店は作りません。500 坪ないと来ないのは事実です。だから、むしろそのような買い物難民のところ、例えば大山や和合では、富山市が補助を出してスーパーやコンビニに来てもらうようなことをしています。500 坪あれば来るかもしれませんが、今の南富山では 150 坪しかできません。でも人は止まります、確かに。当然商売だからチラシも入れて、ポイント 5 倍 10 倍だと言って、人を呼び込むことはあるかと思います。

○大山委員(代理 熊野様)

私は堀川南地域コミュニティバスの運営をしていましたが、やはり一方通行があったこともあり、1日8本を交互に運行させました。なぜかというとな富山の近隣にスーパーが3軒あり、着いて一時間から一時間半後に回ってくるようにして、逆方向だったら行って帰ってこれます。今、コミュニティバスだけで年間4000人ほど乗客がいます。その方々のために南富山周辺にそのようなものがあると、やはり希望者も多いし、割と全体的に長いので、住民の方はやはりそのような希望者はいます。何かのきっかけで、そんな大きなことはしなくても、SNSで発信していけば来ると思っています。月並みなものではダメだと思います。

○真野委員

少し違う視点で、不動産協会からはいかがですか。

○高崎委員

このビジョンだけではさすがに、細かいことは書けないと思いますが、その動きを起こそうと思った時に、私の意見ですが、やはり道の整備が一番重要なのではないかと思います。道は自動車の道も、歩行者、自転車などの整理をしっかりすればいいと思います。そうすると、このビジョンという居住環境や、暮らしの付加価値、その辺は後から自然とついてくるのではないかと思います。交通量もある程度あって、移動もしやすい、そういったところで、商売をやりたい、住んでみたいと思う人は、放っておいても出てくると思っています。やはり南富山の課題は昔からそこなのではないかと思います。悪い意味でシームレスというか、混在している、当然危ない状態にもなっています。そこを1回整理整頓することが重要だと思います。今は一回踏切が降りたら、長く待っていなければいけません。おそらく潜在的に近づきたくないような感じがもしかしたらあると思います。法的な制約は当然あると思いますが、例えば、国道41号線の双代町や駅前では、踏切が降りたら待つ必要はありますが、開いている時は一時停止せずそのまま進めるところもあります。南富山はやはり一時停止が必要です。大町、草島線のところですか。ああいった所も心理的に絶対混む、ということが心理的に働いているのではないかと考えています。そういう意味で、繰り返しますが、やはり交通量の整理が一番重要で、そこさえクリアすれば、あとは自然と価値が高まってくる。目的地になるべきものがやってくるなど、起きてくるのではないかと思います。

○真野委員

ありがとうございます。その今おっしゃった交通の整理が、本当に駅前の混沌としたところだけではなく、そこに繋がってくる、いろんな面も含めてという意味の話かと思えます。本当に、駅の真ん前が最終地点であって、整備はすぐできませんが、その周りの道路や学校の前などいろいろなところが詰まっている、車が通りづらいなど、いろいろな面で見直すべき点もあるのかもしれない気はします。やはりそういった視点で、おそらくこの中に入っているとは思いますが、もう一回見直してみることはあるかと思いました。はい、ありがとうございます。今の話で学校の視点ではいかがでしょうか。

○大久保委員(代理 小田様)

まず先日、昨年度の県内の出生数の激減に関して触れられている記事が非常に気になっているの

ですが、中学校三年生、今年卒業した県内の15歳人口は約9200人です。しかし、今の出生数は約6000人ということです。これ以上増えることはありません。このままどんどん減っていきます。15年間で3000人減は、非常に大きな減少です。どのくらいかという、今の高校再編が一気に、この10年で進まないとは全く成り立ちません。県立高校の定員割れが記事になっていましたが、とにかく一気にこの子供たちが減って、イメージ的には社会が縮んでいくようなイメージで、今のままではなかなか維持できない、そういう記事でした。魚津の方では、12あった小学校が今では5まで減少し、立山も5ある小学校が2つに減っています。そのような中で、今、この地区が文京地区の強みや魅力があり、堀川中学校も1000人の生徒を維持しており、来年度も増える見込みです。非常に生徒数も多く、世帯数も多いというところですので、活性化できる魅力は十分あります。ただ、世の中を見てみると、社会が縮む、小さくなっていく中で、この富山市の南富山だけの問題ではなく、市全体や県全体の問題として、考えていく必要があると思います。ですから10年後、歳入が減った状態で、市はインフラの維持などにより、ほとんど南富山にかけられるお金がないような状態になるかもしれません。そうなった時に、今この地域が、社会が縮小していく世の中で、どうあるべきかを考えてみる必要があると思います。真野委員に質問ですが、市内や県内、もしくは、全国の中で類似した再開発などの取組で成功例があれば、ぜひお聞かせください。文教地区の強みを十分に活かし、再開発をしたら非常に活性化して、人も戻ってきた。また、同時に高齢化が進んでいるので、子供たちや若者世代だけではない問題も絡んでいます。ぜひ聞かせていただきたいと思います。

○真野委員

はい、ありがとうございます。よく成功事例といいますが、この低成長、人口減少の中で何がよいことなのかということが結構変わってきています。ただ、爆発的に人が集まって、右肩上がりでの営業成績が出ることでないとすると、この成功事例ということは、結構長い目で見ないと分からないということがあります。例えば、バブル期に成功していた施設はもう風前の灯火で潰れているようなことがよくあります。やはり今、パッと見、人がたくさん集まっていて、新しい試みとしては良い形になっていることを我々が成功事例と思っていても、それも10年のスパンで見たらいいのですが、その後は分からないということがあります。ただ、委員がおっしゃったような、どの地方の町もそうですが、1000人規模の一つだけいい学校、高校や中学校、小学校など、いい学区の中に、やはりマンションや分譲住宅地等も集まってきます。だから、大規模な開発をすれば良くなるのではなく、学校や病院がその柱になります。教育面・医療面が、その宅地や不動産の関係を变えるということが、今の縮小時代の中では、学校こそが実は最大のコンテンツになる、そういう現象がよく起きています。だから、開発したから動くのではなく、いい学校をいい形で維持することによって、商業、不動産事業等がついてくると、さらに変わるみたいなもので、最たる例は大学や大学病院です。アメリカなんかもそうですが、キッズアンドメッズと言って、教育と医療の拠点施設がその開発を牽引するという考えで、そういうことがやはり、地方都市でも病院と学校が綺麗に、良い環境になると、他の商業施設やマンション、家も変わるということが多いです。具体的な例はありませんが、そういう場合が多いです。今、富山市ほどの県庁所在地クラスで、例えば、和歌山市や鹿児島市、政令指定都市でも規模が小さな都市です。あとは鉄道駅の結節点は、今のところはなかなか衰退しないのですが、でも地鉄さんも来ていますが、やはり民間鉄道と行政が連携して、駅周辺を整理したり、暫定活用しながら次の開発を進めていく。今ちょうど広島市や神戸市などの大

きな市では、そのような結節点のリニューアルのようなことを率先してやり始めています。富山市の南富山の取組みは、規模は神戸や広島より小さいですが、このクラスの都市にしては、早くチャレンジしていると思います。これから地鉄や市、民間事業者が連携して、そういったところに少しずつ手をつけていく、その入り口がおそらく南富山なのかと思っています。私たちもだからそういったものの例を一生懸命、行政と勉強会などしながらやっています。今日すぐ披露はできませんが、あるにはあります。ただし、これが先にやっているからうまくいっているかどうかは、やはりもう少しいろいろな視点で評価しないとわからないので、見た目小綺麗に、インパクト強くできているから成功とも言えません。早く動いたからいいとも言えないこともあります。そういうところだと思っています。いいお答えになったかわかりませんが、当然、市や行政の大きさや、生活圏の大きさのレベルによっても考えられています。

また、今は15分都市、20分都市といった、主にパリ、ロンドン、メルボルンなどの世界規模の大都市で何百万人も住んでいるからといっても、もっと人の生活はコンパクトにしないと、大きな都市に住んでいるからといって享受できないようなことがあります。特にコロナの時に、あまり遠くに移動しなくなり、もう少しコンパクトな中にいろいろな利便性や、楽しめる、健康に良いことなどを進め、密度を高く、近隣を変えていくという考えが出てきたので、そういったこともここには入っています。まだ日本版のコンパクトシティで、富山市がかなり早く取り組んでいますが、大きな町全体のコンパクトシティは取り組んでいるけれども、もっと近所の、今言った南富山位のレベルのコンパクトは、まだ手掛けていません。それを初めて描いたものがこれだということです。今おっしゃったようなことが、特にまた、南富山は先ほど申し上げたように、中学校と高校2校という他の町にはない強みがあるので、そこから考えていく。かつ、駅や道路、宅地なども一緒に入れていこうということを今やっています。だから、先進事例を探すというよりも、自分たちが先進事例であると覚悟した方がいいという気がします。当然いろいろなケースなどをスタディしているところですが、そういったことをこれから取り込んでいながら、事業化や事業体を作ることなどの形になっていくと思います。社会実験もいろいろなレベルでやっていかなければなりません。先ほどのサウンディングではないですが、本当に小さいスーパーは出る可能性はないのかなどもあります。そういうこともやろうと思えば、あげられると思いますし、いろんな知恵というか、常識にとらわれない切り口を何個か入れていかないといけません。今までのルールで行くから、今こうなっているという話なので、そうではない、少し違う視点を入れていかないといけないというのがありますので、それを最初からビジョンに示すことはできませんが、こういうことをやってみないかっていうのが、やはり実験的なプロジェクトではここから作っていかないとはいけません。

○大山委員(代理 熊野様)

先ほど最初に話されましたが、本日は地鉄の部長さんが来ておられます。先日のまちづくり対話会で南富山の駅舎、あんなに大きなものがあるのか。あれを何とか改築して、賑わいの拠点に市と協力してやれないかという話がありました。ここには遠慮して書いてありませんが、何回か話はあったと思います。そういう部分は、市と話をすればすぐにできる事なので、あそこを拠点として何かできないか。私たちの時は、教習所やガイドなどの社員教習などで使っていましたが、今は駅員の教習で使っているということで、そこまで大きなものはいらぬはずで。

それともう一つ。昔、南富山に車庫があってできませんでしたが、両側に住宅が建っているの

歩道橋を設置して渡れるようにできないか、南北の往来ができるようにならないのか。この2つです。

○吉川委員(代理 高松様)

いつもお世話なっております。先ほどのご意見の通り、子供の急激な減少は、我々の鉄道事業にとっても非常に大きな問題であり、弊社の方では既存の鉄道線の在り方についていろいろな形で今、ご相談させていただいているところです。また、JR等も新聞で出ていますが、上下分離など、いろいろな形の問題は出てきていますが、それらも合わせて、沿線の各自治体と、いろいろな協議を開始しているところです。その中で今お話があった南富山駅についても、我々としては今、ご指摘いただいたように、現在は弊社の鉄道線単独の施設となって、昭和40数年からもうかれこれ相当な年代が経っております。我々としては、やはり、ちょうど富山市などのご協力をいただきながら富山駅が南北接続になり、ご存知の通り、広場ができて、あそこではたくさんの学生や観光客の方々が、景観を楽しまれたり、時間待ちをされたりしています。あるいは商業施設への出入りの形で、多くの方々が往来していらっしゃるわけですが、そういったスペースも南富山の方に作って、なおかつ、駅施設だけではなく、当然、あの建物のまま10年、20年というわけにはいきませんので、我々としてはこのまちづくり協議会の方とお話をしながら、駅施設だけではなく人が集えるような施設を含めた、総合施設化を図っていければということで、協議会の方に参加させていただいております。先ほど不動産関係の方々も話をされましたが、南富山については、弊社の鉄道線から道を挟んだ反対側、商店街のところは狭隘なスペースになっておりますが、実は、私どもはゴールデンボウルをはじめ、いろいろな大きな土地を所有しており、その土地を担当している不動産関係の部署に、都会の方から、ディベロッパー、不動産開発業者、マンション開発業者等が色々いらっしゃいます。その中で南富山の話も少ししたところ、興味を持つ会社もいらっしゃいます。ですから、今の状態で、南富山が何十年後かにできあがる前に、時間もかかるかもしれませんが、先ほど村家委員から勧められたとおり、やれるところからやるというスタンスで進めていけば、本当に我々にとっても大変ありがたいと思います。まだそのあたりも、皆様方と勉強を進めさせていただければ、光栄と考えております。

南富山の駅舎は、弊社の建物でも、実際、今一番古い状態になっています。先般、最も古い建物であった双代町の自動車営業所の方も、そちらの方は売買という形でしたが、新しい営業所へ移転させています。南富山もしっかりと対応していきたいと会社も考えておりますので、また、ご協議いただければと思っております。ぜひお願いします。

○真野委員

前向きなお話をいただけているということです。松山委員、いかがでしょうか。

○松山委員

私の方からは、資料にも出ていますが、いずみ高校と今年度一緒に、総合的な探求の時間という形でまちづくりを取り上げて関わらせていただきました。その際に、真野先生にも協力いただきありがとうございます。南富山のまちづくりに対しては、駅前の広場の交通課題、また、HARE/PANに協力いただき、南富山パンを2種類開発し、販売しました。あとは賑わい創出のため、夏にイベ

ントを開催という形で、3つのテーマで、いずみ高校の子供たちと一緒にやらせていただきました。実際、いずみ高校の生徒は南富山に住んでいません。だから、今まで興味を持っていなかったことに対して、地域課題に関心を持ち合わせたというところでは、非常に面白い取組だったと思っています。何より、その課題に対して、他人事から自分ごとになって捉えて、課題解決について一生懸命頑張って勉強したというところでは、10年後、このビジョンでもありますが、彼らは26、7歳という世代になっています。また南富山に戻って移り住んでみたいと思ってもらえたらいいという取組だったと思います。これについては来年度も継続していきます。我々は建物を建てたり、ハード整備はできませんので、こういったソフト事業の面からサポートしていく形だと思っています。こうした文教地区ならではの、町のつながりを通して、学校を中心とした付加価値を高めることが、今後の我々の活動になると思います。そういった意味では、まず建物を建ててからといった議論が先ほどから出ていますが、いつになるか分からないものを待っていても仕方がない、人口減少は進んでいきますので、やはりソフト事業と一緒に盛り上げて実施することが大事だと思います。また、文京地区というメリットに、学校におんぶにだっこになっているような気がしますので、もっと地域住民やお店などが学校に関わることを大事と考えます。また、自慢できる小・中・高校がある地域だと思っています。私たち、まちづくりを考える会では大きく3つのビジョンを立てて活動をしています。まず、「公共交通や人、車の調和する街」を目指しています。これも十分ビジョンに反映されていますので、非常に満足しております。また、「安全安心な町」を作ろうという形で活動もしており、こちら也十分含まれていますので、満足しております。3つ目のビジョンが「青春の思い出を語る街」ということで、今現在、子供たちと一緒に取り組んでいることがその内容になっています。富山県でも、公共交通戦略会議が今年度開催され、駅や駅周辺に対して、投資・参画しようという流れで、来年度以降も進むと聞いております。その会議に私も参加しており、そういう話になっておりますので、ぜひ、行政に頼らず、みんなで活動できるような幅ができていけばいいと思っています。

○真野委員

意見交換は以上とします。今後の取り組みなど、事務局の方からご説明いただくことになると思います。一旦これで意見交換は締めさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

※次年度以降の取組について説明

それでは、最後に今年度の協議会閉会にあたり、活力都市創造部部長よりご挨拶いただきます。

○活力都市創造部長

本協議会を閉会するにあたり一言ご挨拶申し上げます。本年度中は関係者協議会を全3回にわたり開催したところ、皆様方におかれましてはご多忙の中、本協議会にご参加いただくと共に、活発にご議論いただき、誠にありがとうございました。また、これまで実施してきたまちづくり対話会にご参加をいただいた市民の皆様をはじめ、南富山まちづくりを考える会の皆様、南富山を題材とした総合的な探究の学習にご参加いただいた富山いずみ高校の生徒の皆様、さらにシール投票掲出におきまして快く掲出場所をご提供いただきました富山地方鉄道、大阪屋ショップの方々に対

し、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。そして、それぞれの取り組みにつきましては、東京工業大学の真野先生をはじめ、学生の皆様のサポートをいただいたことで、実現ができたということであります。真野先生には改めて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、この南富山駅周辺まちづくりでございしますが、まずは、駅周辺のまちづくりに関係する皆様と現状や課題を共有するとともに、広く市民の方々とまちの将来像を想像しながら進めていくことが重要であると考え、これまで将来ビジョンの策定を進めてきたところであります。この将来ビジョンを策定する過程において、南富山を魅力ある良いまちにしてほしいといった期待の声を数多く頂戴しております。また、多くの皆様、関係者からご協力をいただけるということは大変心強いことであり、より実りのあるビジョンの策定に繋がったものと考えております。本日の協議会では、こうしたさまざまな思いを取り入れ、未来の南富山に期待を抱けるようなビジョン案をお示しすることができ、非常に嬉しく思うとともに、引き続き、最後の取りまとめの方はしっかりと事務局でやっていきたいと思っております。そして、本ビジョンを策定のゴールとせず、南富山駅周辺を活力と魅力あるまちへと再編していくためにも、次年度からは具体の計画策定や事業構築に向けた取り組みを継続していくこととしております。しかしながら、行政の力だけでは限界があることから、より良い計画作りや事業構築となるよう、地域住民の皆様をはじめ、産学官民が一体となりながら自分ごととして様々な活動を生み出していくことが大切だと考えております。こうしたことから、市民の方々や関係する皆様方におかれましては、引き続きのご支援ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。簡単ではございますが、閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。皆様、本当にどうもありがとうございました。

○事務局

以上で第3回南富山駅まちづくり関係者協議会を終了いたします。皆さん、本日はどうもありがとうございました。